

令和2年度 下段地区町政懇談会

開催日時 令和2年11月17日(水) 午後7時～午後8時00分

開催場所 下段公民館 2階大研修室

出席者 立山町 舟橋町長、酒井副町長、大岩教育長、
青木総務課長、池田建設課長、野田農林課長、青木教育課長、
清水住民課長

村上総務課課長補佐、長岡建設課課長補佐、秋元農地林務係長

地元議員 坂井議員

下段地区自治振興会 加納会長

企画政策課 林課長、山田課長補佐、松本主任、細木主事

参加者数 64名(うち町職員13名)

1 挨拶

町長挨拶

2 懇談会

(1) 町からのお知らせ

洪水ハザードマップについて(建設課長・総務課長から説明)

※町からのお知らせ後に質問あり

- 防災行政無線について、近年の家は高气密高断熱となっており、放送の内容が聞こえない。町の対応は、あんしんメールか。過去に行方不明者の情報なども流れており、できるだけ多くの人に放送内容を知ってもらいたい。

(総務課長)

下段地区内に防災行政無線は4か所設置しており、今年度中に上金剛寺に1か所増設予定である。町全体で60か所あるが、あまり増やすとハウリングを起こし聞き取りにくくなる。広報たてやまの裏面には、毎月、「防災行政無線の放送内容はこちらで確認できます」と電話番号を記載している。豪雨時では雨音等で聞こえない可能性があるため、町では、緊急エリアメールの発信、ケーブルテレビ、区長等への電話連絡、広報車でのパトロール、ホームページへの掲載、LINE、Twitterでの情報発信など、いろいろな媒体を通じて周知に努めていきたい。

- 町には、雨量計はいくつ設置されているのか。どこの雨量計を基準としているのか。最近「50年に1度、30年に1度」とよく言われるが、合っているのか。また、町には標高の表示が少ない。今後表示を増やすことを検討しているか。

(総務課長)

雨量計は消防署の屋上に設置しており、観測値は町ホームページで公表している。

また、白岩川は泉正橋、栃津川は流観橋、2つの川が交わる公益橋で水位を観測しており、国土交通省のホームページで確認できる。豪雨時には職員が待機して、避難が必要であれば指示を出すこととなっている。

(建設課長)

この洪水ハザードマップの浸水区域図は、約1000年に1度の降雨を想定し、国土交通省と県でシミュレーションしたものである。近年はよく30年に1度とか、50年に1度とかの豪雨で大きな災害が頻発しているが、あくまで確率論で出したものである。1000年に1度と言っても安心せずに、いつでも発生する可能性があるという認識で対応してほしい。

(総務課長)

町では公民館等での標高表示はしていない。役場敷地内には標高67mと表示がある。

(2) 下段地区協議事項

(加納会長)

① 下段地区内道路整備の課題・具体的取組事項・今後の取組計画について

(建設課長)

町の道路整備については、国の交付金等を活用しながら進めていくことになるが、拡幅整備には用地の取得、物件補償が伴い事業費が多額となる場合があり、また老朽化の進む橋梁の補修や道路施設の修繕、舗装補修などの維持管理のためにも予算を確保していく必要がある。

道路整備に関しては各地区からも沢山のご要望を頂いており、今後とも、限られた予算の中、町民の皆さまに安全・安心な道路環境を提供していくことが重要な課題であると考えている。

こうした中で、下段地区内については、近年、県において、

- ・ 県道富山立山公園線（S字カーブ区間）の拡幅工事（L=420m、W=12m）
H24～R1 全体事業費 約260,000千円（町負担金26,000千円）

町においては、国の交付金を活用し、

- ・ 町道坂井沢白岩線（栃津川歩道橋等）の歩道設置工事（L=1,700m）
H22～実施中 これまでの事業費 約124,000千円
- ・ 町道大清水榎線（下段駅西側）の道路拡幅工事（L=340m）
H28～実施中 これまでの事業費 約13,000千円
- ・ 町道坂井沢大清水線（コメリ前）の歩道の拡幅工事（L=300m）
H28～実施中 これまでの事業費 約13,000千円
- ・ 町道古川線の拡幅工事（古川地内 L=340m、向新庄地内 L=220m）
（古川地内）H24～H25 全体事業費 約37,000千円
（向新庄地内）H29～実施中 これまでの事業費 約12,000千円

- ・町道五百石道源寺線（下段保育所前）の交通安全対策（カラー舗装）

R1 事業費 約 1,000 千円

さらに、町単独費による

- ・友情館の東側道路の道路拡幅（L=106m）

H28～実施中 これまでの事業費 約 12,000 千円

- ・町道上金剛寺下金剛寺線の舗装工事（L=420m）

R1～実施中 これまでの事業費 約 11,000 千円

- ・坂井沢 5 号線の舗装工事（L=330m）

H27～実施中 これまでの事業費 約 5,000 千円、

このように複数の路線について事業を実施しており、この 10 年間で事業費 約 4 億 9 千万円を執行し、町内でも公共工事が進んでいる地区である。

今後とも、これらの箇所において継続事業の進捗を図るとともに、立山町通学路等安全推進会議でのご意見や、町道大清水線の下段踏切から西側の道路拡幅など、地区からのご要望の箇所の交通利用状況等を踏まえ、通学路等の安全対策を中心に、必要な道路整備について検討していく。

② 地鉄下段駅周辺の環境整備の課題・具体的取組事項・今後の取組計画について

（企画政策課長）

地鉄下段駅は、駅舎が町道から数十メートル入り込んでおり、駅出入口から町道までの照明は、富山地方鉄道が設置した照明装置のみである。また、駅舎までの進入路と駅舎前スペースのいずれもが狭く、送迎用の車両が方向転換するのにも一苦労されていること、併せて、昨年度実施された未就学児の散歩コースの安全点検の際には、進入路に対し子供たちの線路敷への進入の危険性について指摘があったとお聞きしている。

町では、昨年度、地区から照明装置の新設のご要望をいただき、下段駅を含む立山町内の他の駅舎の照明について調査した。町道の防犯灯等の灯りが入りにくいという部分はあるが、下段駅だけが特別に暗いという状況ではなかった。管理者である富山地方鉄道にも現状をお伝えしたところ、本年 1 月に照明装置を蛍光灯 2 機から LED 照明 4 機に増設していただいた。

また、送迎用スペースの確保については、町も現状は認識しているが、駅周辺は住宅地であり、駅に隣接した土地を新たに確保する事は難しい状況である。進入路の安全対策についても、敷地を所管する富山地方鉄道と協議したところ、基礎を設けた常設型の防護柵を電車の運行に支障の無い仕様で設置するには多額の費用がかかるため、実施は難しいとの回答をいただいている。

一方で、今年度に入ってから、榎町内会より「進入路の東側にある空き倉庫（敷地含む）を町へ寄付する方向で所有者の了解を得られるように動き始めた」とのお話があった。町としては、このお話が先に進んだ場合には、送迎用駐車スペースの創設や駐輪場の増設等、一体的な整備ができるよう、国、県補助金の活用も踏まえた検討を進めているところである。

③ 用排水路の安全対策について

- ・ 国の農業用水路安全対策モデル地区指定(榎地区)の安全対策
- ・ 指定地区以外の下段地区における取組方針

(農林課長)

榎地区については、国モデル事業（農業用水路安全対策計画策定事業、県内 25 地区の内の 1 地区）に位置付けられており、今年 8 月 18 日に、県富山農林振興センターが主体となって、「ワークショップ」を試験的に当地区で開催し、榎区長や榎生産組合長ほか 6 名のご参加のもと、住民自らが点検と検討を重ね「危険個所マップ」を作成した。その結果、合計 12 か所の身近な危険個所を再認識し、今後の事故防止対策に役立てていくこととしている。

現在、国の農業用水路安全対策緊急整備事業では、転落防止柵等のハード対策の検討がなされているところである。具体的な対策内容が固まり次第、当地区と実施に向けた協議を進めていく。

他の下段地区における取組方針については、榎地区の取り組みをモデルケースとし、「ワークショップ」を横展開していく。それぞれの「危険個所マップ」から、地域ニーズを把握するとともに、今後、県が作成する「農業用水路安全対策計画」の中に位置付けていくことで、普及啓発と注意喚起、転落防止柵や鉄筋網蓋等の設置に繋げていきたいと考えている。

また、今後、「ワークショップ」にて抽出される危険個所の中に、通学路等が含まれることが考えられるため、学校関係者や道路管理者、警察などの関係機関とも連携をしていく。

(3) 自由意見

- 全国的に新型コロナウイルス感染症の影響で個人や事業者が苦労している。町として今後どんな対策を考えているか。

(町長)

商工業者の方には、国から、中小企業庁や全国の商工会連合会、町の商工会を通じて、融資に当たっての利子補給や緊急の貸出、持続化給付金などの制度がある。町では、県と協力して、休業要請協力金や、融資の保証料に対し、地方創生臨時交付金を使って支援している。

農業者には、全国の農業者団体連合会を通じて、町内 30 数団体に補助金をお渡ししている。

町が主体となって行っている支援とすれば、個人への税金の納税猶予や国民健康保険税が昨年の所得に応じて賦課されるため、保険税の減免でカバーしていることなどである。

今後、令和 3 年 1～2 月に、国は第 3 次補正予算で大型の景気対策を出す予定。財源的に有利なものが多いことから、当初、令和 3 年 5～6 月に実施予定であった公共事業を 3～4 月に発注するなど前倒しして実施する予定である。特に環境省では二酸化炭素削減の名目で補正予算を組んでくる可能性があり、LED 化されていない公共施

設について、LED化を進めていきたい。建設業者、電気業者、水道業者に仕事を発注することも町の仕事であると思っている。

- 下段公民館の前面道路が県道から町道になった。ひび割れや段差がひどく、穴が開いたらやっとな埋めに来るという現状だが、1回全面的に舗装をし直さないといけないのではないか。延長や拡幅も大事だが、今あるものの維持管理をしっかりとしてほしい。段差があることで融雪の水がたまり、車が通った時に歩行者に水がかかる。ひび割れのない道路にしてほしい。

(町長)

立山インターチェンジ前の道路を県道に格上げしたので、公民館前が町道になった。五百石の天満宮から続く道であり、五百石地区からも同じような要望が出ている。できれば国の交付金をもらって、かがやき保育園の前の道路のようにカラー舗装したいと考えているので、もう少し時間が欲しい。

- 道路を新規事業としてやる場合、地元、どこからどこまでやるか、何か年を予定しているのかなど、全体計画を説明してほしい。工事を着手する時になって、業者が決定したのでいつからやります、と急に案内が来る。年度初めに、施工時期や工事の内容などの情報を示してほしい。また、事前の説明も、町からだけの場合や、業者からだけの場合など、ちぐはぐである。全く来ないこともある。業者と地元でトラブルになって、工事をさせないという話もある。回覧板で情報を地区全員の方に周知してほしい。

(町長)

利田地区自治振興会は、年度初めに県土木事務所と町建設課を呼んで、今年は何んな工事をするのか聞いている。下段地区もそういった会を主催されてはどうか。

(建設課長)

町からの工事の情報については、施工業者が決まったらまず町からお知らせをし、施工業者からもいつから着手します、と具体的な時期をお知らせしていたつもりだったが、抜けていた部分もあったのかもしれない。今後徹底していく。

- 下段駅の照明について、先程「他の駅も暗い。これは富山地方鉄道の施設である」との回答であったが、駅はまちづくりの観点から地区の重要な施設であるのに、町としてそれでいいのか。「電車で家に帰る時暗い」「怖くて逃げ帰ってきた」という話も聞く。利便性・安全性の面からどんな風に考えているのか伺いたい。

(町長)

できることならなるべく明るくしたい。昔の蛍光灯があり、電気代がかかっているので、これをLED化すれば、更新費用が出てくる。実施するのであれば、下段駅だけではなく、すべての駅でやりたい。なお、雄山中学校のPTAからの要望に対し、榎町の駅舎の改修に補助金を出す予定である。

- 私たちは地域づくりの目標を2つ掲げている。1つ目は地元と町が協力してまちづくりを行うこと、2つ目は地元が人・知恵・金を出してまちづくりを行うこと。共生社会を目指して地域のきずなを深める、マイナスの面を少しでも無くすためにやっている。
- 朝晩、防災行政無線で熊について放送されているが、実際熊が出没しているのか、注意だけなのか。

(農林課長)

毎日、朝晩「熊に注意してください」と放送している。今年は熊が出るよ、と言われていたが、昨年と比べると少ない方である。防災行政無線、ホームページ、あんしんメールで情報を発信している。目撃情報があれば、早い段階で皆さんに情報をお伝えするよう、心がけている。

3 閉会

加納会長、坂井議員挨拶

終了